

公益社団法人 日本臨床腫瘍学会
会員 各位

国立研究開発法人国立がん研究センターでは、「がん登録等の推進に関する法律」(法律第百十一号)および「院内がん登録の実施に係る指針」(厚生労働省告示第四百七十号)に基づき、院内がん登録における登録ルール等を適宜提示しているところです。

さて、かねてより院内がん登録では、登録する腫瘍の組織型について、国際疾病分類腫瘍学第3版(International Classification of Diseases for Oncology, Third Edition; ICD-O-3)のMorphology codeに基づくコーディングを行っておりますが、昨年 International Agency for Research on Cancer (IARC) から ICD-O 第3.2版が公表されたことから、院内がん登録においても2020年症例より同版を採用することいたしました。

この第3.2版の採用にあたり、国立がん研究センターでは、各施設で院内がん登録業務を行う担当者(がん登録実務者)向け資料として、同じく IARC より公表された第3.2版で新規作用された用語に対応する日本語訳と、すでにある第3.1版日本語訳とを包括し、またその他考えられる日本語訳を加え、日本語訳付き ICD-O 第3.2版原案を作成いたしました。

この原案は、登録対象となった腫瘍に対して医師が診断した組織型名称から、がん登録実務者が適切かつ円滑にコーディングが行えることを目的としています。そのため、英語表記されている同一疾患名に対しても、実臨床で用いられうる複数の日本語訳名を提示している場合があります。

ここで、貴学会会員の皆様におかれましては、実臨床において使用されうる日本語訳で、本原案に記載されていない日本語訳候補があれば、その日本語訳についてご教示賜りたく、この度パブリックコメントをお寄せいただきますようお願い申し上げます。

パブリックコメントの期間は、2020年3月31日(火曜日)までとさせていただきます。
日本語訳付き ICD-O 第3.2版原案は下記フォームよりご覧いただき、また追加で日本語訳のご提案がある場合、同フォームにご記入の上、ご送信ください。

<https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=ndqe-lboald-24e8895c6956f38579e2f976e9caaa06>

なお ICD-O-3 においては、Morphology code の桁数に限りがあることから1つの Morphology code で必ずしも同一あるいはその類縁疾患のみを表すとは限らないこと、すでに IARC より公表されている第3.2版日本語訳は変更せず使用すること、またこの第3.2版日本語訳作成の趣旨を鑑み第3.1版で使用されていた日本語訳については、現在必ずしも一般に用いられないと思われる用語であっても引き続き使用の方針とさせていただきます。

以上、何卒よろしくお願い申し上げます。

国立研究開発法人国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター長 東 尚弘